

第 3 回千葉療護センター老朽化対策検討会

1. 日時：令和 5 年 1 月 30 日（月）14 時 00 分～ 16 時 15 分
2. 場所：シップヘルスリサーチ&コンサルティング（株）会議室
3. 出席者：麦倉座長、岩堀委員、緒方委員、片山委員、桑山委員、小林委員、
出口委員
オブザーバー：東北療護センター、岡山療護センター

4. 概要：

検討会は、麦倉座長による進行により、議事次第に沿って、事務局から資料 1～7 に沿って説明が行われた。

委員から出された主な意見・質問は以下の通り。

（議題 3 自動車事故被害者におけるアンケート調査の結果について）

- ・アンケートの結果を拝見すると、療護センターの看護サービスは非常に高い評価を受けていることが分かった。看護の質を落とすことなく、更なる向上を図るためにも、コンセプトの設定にあっては、看護師にとって働きやすい職場作り、環境を整備するという点に留意する必要があるのではないかと。
- 医療スタッフの働き方への配慮も必要であるため、プランに反映させていきたい。
- ・アンケートの結果を拝見して、事故から 20 年、30 年経過してもなお、在宅で両親が介護している現状は非常に深刻な問題であると感じた。
- ・高次脳機能障害は体系化されているものの、リハビリ内容は個々の患者の生活を見ながら、目標を定めていく必要があり、アンケートの結果だけでなく個々のニーズを注意深く聞くことが重要である。
- ・患者家族からのニーズとして、療護センターから最新の介護・治療・リハビリに関する情報提供をしてほしいという声があったので、こうした要望についてしっかり

対応していく必要があるのではないか。

→本検討会は老朽化対策がメインであり、建物に関する意見を中心に取りまとめているが、本検討会とは別に、ソフト的なことについても、アンケートの更なる分析などを行い、しっかり対応していきたいと考えている。

(議題4 自動車事故被害者におけるニーズへの対応策の検討について)

- ・外来機能の設置については、ハード面・ソフト面で条件を整理するなど、色々と検討が必要ではあるが、外傷性脳損傷分野における専門家の数が少なくなっているため、そうした専門家を育成する観点からも、対象範囲を絞った上で、専門家による評価や意見を聞けるように相談窓口などを設置してはどうか。
- ・外来機能の設置の有無により、ハード面・ソフト面のそれぞれでの条件や設計内容が大きく変わることになる。そのため、外来機能の設置の有無については、利用者ニーズ等をよく踏まえて検討することが必要ではないか。

→外来機能については、運用面を含めて引き続き検討していくこととしたい。

- ・再生医療などの研究機能を設けていただきたい。新しいリハビリ方法の紹介など、患者の目の前が明るくなるような情報を発信してもらえると励みになる。そういった施設になるとよいと考えている。

(議題5 老朽化対策の取りまとめに向けた方向性について)

- ・資料5において、レベルに応じてイメージをまとめていただいたが、言葉だけではイメージが沸きづらいので、補足資料などにより、それぞれの内容や根拠を説明してほしい。

→補足資料による説明を含めて、事務局において資料を整理した上で、意見照会をさせていただくので、ご意見をいただきたい。

- ・レベル1は現状とほぼ変わりなくなってしまうこと、建替え等したらハード面が当面（数十年）その状況で使用する事などを考えると、レベル2～3に記載されている案を中心に検討すべきではないか。

以 上